

に際して出血を少なくする目的で本法を3例に行ない良好な結果が得られた。

(方法) Girvin 等の方法に準じ、開頭後、feeding artery を出来るだけ多く verify し、最も強大なものを選び、出来るだけ nidus の近くで、temporary clip を2ヶ所 apply し、この間で動脈壁を穿刺し、短かいカテーテルを挿入する。カテーテルと血管壁の間に間隙を作らぬ様、糸で結紮後 Cyanoacrylate を1.0~1.5 ml 注入する。

(結果) この方法によると、nidus の大部分は固化され、他の feeder の一部にも逆流し、これらは剪刀で切断すだけで、大した出血もなく、容易に全剝することができた。本法は注入された Cyanoacrylate が venous side へ抜けたり、周囲へ逆流するといった危険性も有し、注入量、注入速度などは、今後、症例を重ねて検討すべき問題である。

#### 5. ヤサジール型脳ベラ固定器頭蓋骨固定金具の改良(その2)

乙供 通則・岡部 慎一 (青森労災病院  
脳神経外科)  
高橋 敏夫・大熊 洋揮 (弘前大学  
脳神経外科)  
星 輝雄 (瑞穂医科工業  
株式会社)

目的: 逆V字型脳ベラ固定器頭蓋骨固定金具を改良して、あらゆる方向に対して脳ベラを左右方向に開くように脳を圧排固定出来るようにしたい。

方法: 従来の逆V字型の脳ベラ固定器接続部を、夫々独立に頭蓋骨固定ネジを中心に回転セット出来るようにした。又、脳ベラ固定器を固定させるネジが、術者の手の妨げにならないように、上下方向にも自在にセット出来るようにした。

結果: 従来の脳ベラ固定器は左右にU字状に開いて使用していたが、逆V字の角度を変えることにより片側あるいは両側を内側にU字状にしても使用出来るようになった。又、頭蓋骨固定金具を動かさずに、V字の軸方向(正中線の向き)を変える事が出来るので、あらゆる方向に対して左右に開くようにして、脳を圧排固定が可能となった。

結論: 理想的には関節部は少ない方が良いので、シングル関節で上記の目的を全て達し得るユニバーサル・ジョイント方式の頭蓋骨固定金具を開発したい。

#### 6. Upward angle のバヨネット状マイクロ剪刀の試作について

齊木 巖・金谷 春之 (岩手医科大学  
脳神経外科)

脳動脈瘤の手術に際し、手術用顕微鏡を用い、脳底槽の切開や動脈瘤頸部の dessection には AESCULAP の microscissors (Spring type) の小さな刃の straight type (FD 107) や、curved type (FD 108) を多用して来た。しかし狭い術野で straight type を使用すると、遠近感が不十分であり、刃先の確認やコントロールに必要以上の注意が要求される。また curved type を使った場合には、彎曲のある刃先を目的の部位に近づける時、彎曲が邪魔をする。深部で狭い術野を妨げず、目的の部位に刃先を挿入しやすい microscissors がないかと探索したが適当なものが見つかった。そこで upward angle のバヨネット状のマイクロ剪刀を試作した。upward angle の角度は5°以下となれば、straight type と同様に遠近感の判断が不十分となり、また角度が大きいと curved type と同じように刃先を目的の部位に近づけるのが困難となる。刃渡り10~12mm の microscissors では、upward angle は10~18°程度のもものが、使用に便利であり、多用している。

#### 7. 杉田クリップの小改良

相原 坦道・府川 修 (磐城共立病院  
脳神経外科)  
高橋 康

破裂脳動脈瘤の手術成績は、手術用顕微鏡を始めとする新しい手術器械の出現によってなお向上していくものと考えられる。脳動脈瘤のためのクリップについても種々のタイプのものが出現しているが、最近我々は杉田クリップについて種々の小改良を行なったクリップを特製し、Clipping の困難な症例に対処している。①杉田クリップ No. 8B の改良: ブレードの長さを1~10mm まで延長したクリップで、かつ彎曲をよりゆるやかにし、最大ブレードに伴う太いブレードの不利を cover するために、ブレードの先端を Taper に加工し、動脈瘤柄部へのブレードの挿入を容易なものとした。深部の困難な動脈瘤にたいして、クリップ鉗子が完全に挿入出来ない場合でも、長いブレードを利用して、かつわずかの彎曲で視野を確保出来る利点があった。最近では25~35mm 長のもも作製している。②窓つきクリップ No. 35, 36, 37 の改良: 窓を7mm 10mm と大きくしたもので、巨大内頸動脈瘤の Clipping に有用なものと考えられた。